

# 水道テクニカルサービス株式会社と 官民連携事業に関する契約を締結

～漏水検知システムでインド・バンガロール市の上水道漏水率を低減へ～

国際協力機構(JICA)は、2月16日、水道テクニカルサービス株式会社(横浜市・旭区)と「自動漏水音検知器を用いた漏水検知システムの普及・実証事業」に関する契約を締結しました。



常設型自動漏水監視装置(L-sign)



漏水検知技術の組合せによる  
効率的な漏水箇所の特定

インドでは、急速に経済成長と都市化が進み、特に人口が集中する都市部の水需給は、老朽化した水道管や施工技術の問題による漏水も相まって、質と量ともに確保されていないのが現状です。インド第3の人口を有するカルナタカ州都バンガロール市はなお人口流入が続き、同地域の日あたりの給水量(1,470MLD(Millions of Liters Day))は、給水人口の需要水量2,000MLD(200L/人日)に比べ**500~600MLD(50万~60万トン/日)**が不足しています(2013年9月バンガロール上下水道公社発表資料)。このような状況下、少しでも漏水率を低減し、限られた水資源を有効に利用することが求められています。

今回契約を締結した事業は、同市において、**自動漏水監視装置を設置し、音聴式・相関式を組み合わせた漏水検知技術を導入することによって、漏水率の低減を図るものです。**漏水率の低減によって、水道サービスの向上、さらには適正な料金徴収など水道事業全体の健全化につながることを期待されます。

この事業を受注した水道テクニカルサービス(株)は、神奈川県を中心に自治体・水道事業体等の漏水調査を受注しています。日本の水道漏水率は世界的に見ても低い水準で維持されており、同社は国内で培った技術・ノウハウを活用し、今後、成長著しい途上国で

の事業展開を目指しています。この事業では、同社が共同開発した自動漏水監視装置を用いた検知技術の実証活動を通じて、現地民間企業が実施する不明水対策やインド国内水道事業体を対象とした管路管理サービスなど、それぞれの事業の可能性を調査し、製品やサービスの普及計画を検討します。

※この取組は、日本の中小企業を対象に、JICA が2012年度より開始した「普及・実証事業」として実施されるものです。この事業では、日本の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたものです。JICA は、引き続き、支援国の開発課題解決に資する日本の優れた技術の普及を支援していきます。

以上